

# シンフォニー

第 47 号

年3回発行(1月・5月・9月)

発行/医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 編集/広報委員会  
〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522 TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112 <https://www.shmc.jp>

## 特集

Feature Articles

令和三年年頭のご挨拶

謹んで初春の

お慶びを

申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の院内感染により、地域の皆さまには大きなご不安とご迷惑をおかけしました。皆さまからいただいた温かい支援を励みに職員が一丸になったことで、なんとか態勢を立て直すことができました。改めてお礼を申し上げます。

現在は「院内感染を2度と起こさない」を合言葉に、全職員が感染防御に取り組んでおります。来院される皆さまや入院患者さまにも、マスク着用、検温、手指衛生にご協力いただいております。面会を原則禁止にしていることは大変心苦しいのですが、ご理解をいただければ幸いです。

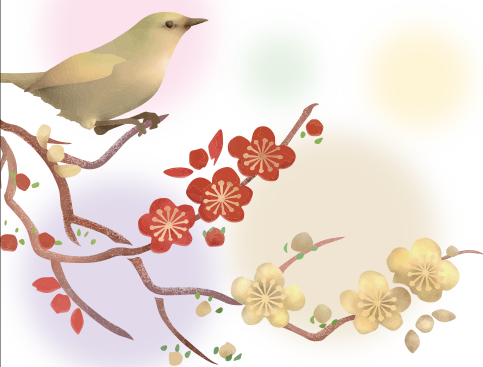
一方、昨年は当院にとって「進化」の一年でもありました。4月に救急科医師2名を増員したことで、さらに多くの救急患者さまをスムーズに受け入れることができるようになりました。また血管内治療センターを立ち上げたことで、脳梗塞やくも膜下出血の患者さまの治療の質が大きく向上しました。整形外科では高齢者に多い大腿骨頸部骨折の早期手術に取り組んでおり、良好な成績を上げています。このような取り組みを評価していただき、9月には大野知事から表彰を受けました。

院長  
藤岡 丞



今年もさらなる進化を目指しています。まず4月には手術室の増設を行い、また麻酔科医を2名増員する予定です。これによりお待たせすることなく手術を受けていただけるようになります。また新たにスポーツ整形外科を立ち上げ、地域の皆さまがスポーツを思いきり楽しめるようサポートをさせていただきます。当院の柱の一つでもある腹腔鏡手術では、最先端の医療機器を導入することで、より安全で安心な手術を行ってまいります。

今年も地域の皆さまに貢献できるよう職員一同で頑張っております。応援のほど、よろしくお願い申し上げます。



脳血管内治療センター



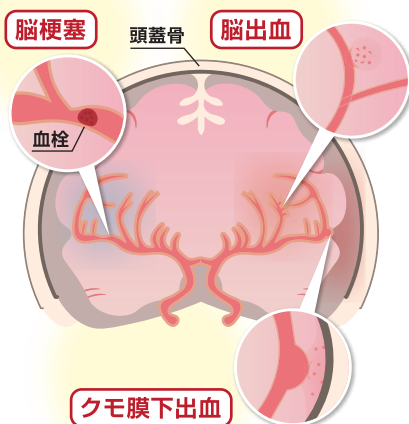
脳血管内治療センター  
センター長  
後藤 昌三

脳血管内治療とは：

頭部または頸部の血管病変（脳動脈瘤、血管の狭窄など）に対してカテーテルを用いて行う治療のことで、低侵襲な治療として最近急速に普及してきました。特に脳血管障害の外科的治療は従来、開頭術などで行われてきましたが、脳血管内治療が加わることで、患者さまの病変や全身状態に合わせて、両者の治療法を適切に使い分けることが可能になり、より安全で確実な治療を行うことができるようになりました。当院では2020年4月より、2名の脳血管内治療専門医のもとで脳血管内治療センターが開設されました。



脳血管内治療の  
主な対象疾患と治療法



脳動脈瘤に対するコイル塞栓術

くも膜下出血の原因となる破裂脳動脈瘤や、未破裂脳動脈瘤に対して、カテーテルを用いて脳動脈瘤の中をコイルで充填し破裂を予防します。動脈瘤の部位、形状、年齢、全身状態などにより手術（クリッピング）か、コイル塞栓術（血管内手術）のどちらが安全で有効かを判断します。

頸部頸動脈狭窄症・頭蓋内血管狭窄に  
対するステント留置術

当院では頸部頸動脈狭窄症に対しては、頸動脈血栓内膜術（頸動脈の粥腫を摘出する）を第一選択としています。病変の部位や全身状態などにより手術が困難な例では、ステント留置術を行います。

急性脳梗塞に対する脳血栓回収術

心原性脳塞栓症など脳の血管が急に詰まった場合、重篤な後遺症を残し、生命に関わることも少なくありません。血栓溶解剤（t-P.A）静注療法に加えて、血栓回収術（血管の中から血栓を除去する）を行うことで、症状の改善が見込めます。

当院の脳血管内センターの特徴

当院の脳血管内治療専門医は血管内治療だけを行うのではなく、開頭術や頸部血管の直達手術にも精通しており、血管内手術と直達手術のそれぞれの利点を比較検討した上で、患者さまにとって、より安全で確実な治療法を選択しています。また、患者さまに寄り添ったチーム医療を目指しています。





## よりよい病院をめざして

### 看護師として今思うこと…

#### ～教育専従の立場から～

あけましておめでとうございます。昨年はどうにお過ごしになりましたでしょうか。

2020年はオリンピックイヤーとして華々しい年になると期待をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大や自然災害など心休まる時がなかったように感じます。そして私たち看護師は、改めて自分たちの役割や責任を痛感させられる一年でした。

新型コロナウイルス感染症では未知数の不安の中、自ら感染してしまうリスクを抱えながら最前線で多くの看護師が闘いました。看護師自身の家族の協力や理解があつてこそ、また、多くの寄付や励ましのお言葉などのご支援をいただき、いまなお闘い続けることができていることは見守ってくださるみなさまのおかげだと感謝しております。



教育専従 関口 恵子

看護師は個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努めることが責務となっています。当院には多職種による専門的な立場からのさまざまな研修会が企画されており、研究発表会など学ぶ環境が整っていることはとてもうれしいことです。医療はとどまることなく常に新しく改革されており、当院の看護師たちも研修会への参加や、日々業務の中で先輩たちに指導を受けながら学び成長します。新人看護師たちは毎日寝る間も惜しんで一刻も早く一人前の看護師になるために努力を積み重ねています。時に勇み足になることや立ち止まることもあります。命と向き合う責任の重さから看護師として自分が向いていないのではないかと苦しむ人もいます。そのなかで新人を取り巻く人たちに支えてもらいながら育っていきます。

折しも2020年はナース生誕200年の年でした。私たちが必要としているひとにやさしい手を差し伸べることができる、そして自分自身に自信と誇りをもって仕事ができる看護師を育てていく環境を創っていくことに今後も力を注いでいきたいと考えております。本年はみなさまにとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。



#### 2020年 新人教育の様子

88.8



おくすり



## 患者教室のご案内 (ミニセミナー)

感染症対策のため、患者教室は当面の間、中止させていただきます。  
開催日が決定次第、当院ホームページにお知らせしますので、よろしくお願い致します。



## 診療実績

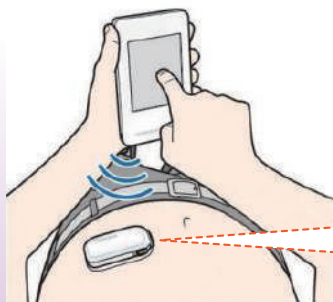
(2020年8月~2020年11月平均)

入院稼働率 ..... 93.0%  
1日平均入院患者数 .. 313.5人  
平均在院日数 ..... 15.5日  
1日平均外来患者数 .. 537.0人  
救急搬送件数 ..... 561件/月  
手術件数 ..... 257件/月  
紹介患者数 ..... 742件/月

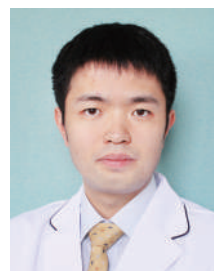
## インスリンポンプ(CSII)が当院でも使用可能になりました。

CSIIはガラケーより一回り大きい程度のポンプを身に着け、24時間持続的にインスリンを注入する方法です。

ペン型インスリンを頻回注射するより、細かな調整ができるため、より厳密な調整が必要な方に適しています。24時間持続的に血糖測定する機器(CGM)とCSIIを組み合わせたSAP療法では血糖低下時に自動でインスリン注入が停止する機能もあり、人工臓器といえる医療機器にむけて進化を続けています。

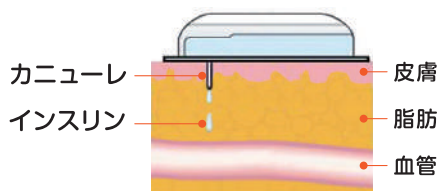


装着イメージ



糖尿病・代謝内科外来  
八木 一騎 医師

一定量が少量ずつ皮下に注入されます



### 交通案内図



#### JR

宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン  
「土呂駅」東口より 徒歩約11分

#### 東武アーバンパークライン

「大宮公園駅」より 徒歩約9分



#### 自動車

首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分  
東北自動車道「岩槻」ICより 約21分



医療法人社団協友会

彩の国東大宮メディカルセンター

〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522

TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112

彩の国東大宮メディカルセンター

検索